<table>
<tr><th colspan="8">項目</th></tr>
<tr><td colspan="3">PRTR 番号：223</td><td colspan="3">CAS-NO：3452-97-9</td><td colspan="2">初期リスク評価指針 Ver.2.0</td></tr>
<tr><td colspan="8">物質名：3,5,5-トリメチル-1-ヘキサノール</td></tr>
<tr><td rowspan="9">一般情報</td><td rowspan="2">物理化学的性状</td><td>①外観</td><td colspan="2">無色液体</td><td>②融点</td><td colspan="2">-70℃</td></tr>
<tr><td>③沸点</td><td colspan="2">193～202℃、194℃</td><td>④水溶解度</td><td colspan="2">水に不溶</td></tr>
<tr><td rowspan="4">環境中運命</td><td>①濃縮性</td><td colspan="6">濃縮性がない又は低いと判定。</td></tr>
<tr><td>②BCF</td><td colspan="6">3.9-8.1（0.1mg/L）・4.0-6.3（0.01mg/L ）（コイ） 実測</td></tr>
<tr><td>③生分解性</td><td colspan="6">難分解性と判定。好気的条件下では生分解され難いと推定される。</td></tr>
<tr><td>安定性</td><td colspan="6">OH ラジカル：反応速度定数が 1.06×10^{-11} cm^3/分子/秒(25℃、推定値)。OH ラジカル濃度を 5×10^5～1×10^6 分子/cm^3 とした時の半減期は 1～2 日。
オゾン：報告は得られていない。
硝酸ラジカル：報告は得られていない。
環境大気中：-
環境水中：加水分解されない。</td></tr>
<tr><td>環境中動態</td><td colspan="6">水中から大気への揮散は小さいと推定される。排出された場合は、好気的な環境下では生分解され難く、一部は酸化されて 3,5,5-トリメチルヘキサン酸に変化して残留すると考えられる。</td></tr>
<tr><td rowspan="17">発生源情報</td><td rowspan="5">製造・輸出入量等（トン/年）</td><td></td><td>2000 年</td><td>2001 年</td><td>2002 年</td><td>2003 年</td><td colspan="2">2004 年</td></tr>
<tr><td>製造量</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">1,150</td></tr>
<tr><td>輸入量</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>輸出量</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>国内供給量</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>用途情報</td><td colspan="7">界面活性剤の原料、可塑剤、香料、溶剤として使用される。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">PRTR データ（2003 年度）</td><td>各媒体の排出量</td><td>大気（t）</td><td>水域（t）</td><td>土壌（t）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>届出</td><td>＜0.5</td><td>0</td><td>0</td><td colspan="3" rowspan="6">河川への排出量：ない</td></tr>
<tr><td>裾切り</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>非対象業種</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>家庭</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>移動体</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>＜0.5</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>対象業種の届出・届出外排出量合計（上位５業種）</td><td colspan="6">倉庫業(62%) 化学工業(38%)</td></tr>
<tr><td>その他の排出源</td><td colspan="7">情報は得られていない。</td></tr>
</table>

項目									
	排出シナリオ		環境への排出量が 372 kg(倉庫業と化学工業)であり、大気中への排出は非常に少ないと考えられる。						
暴露評価	測定値			①検出地点/測定地点	②検出数/検体数	③検出範囲	④95%値	⑤検出限界	⑥調査年度・測定機関
			大気中濃度（μg/m³）	－	－	－	－	－	－
			河川水中濃度（μg/L）	－	－	－	－	－	－
			飲料水中濃度（μg/L）	－	－	－	－	－	－
			食物中濃度（μg/g）	－	－	－	－	－	－
	推定濃度			①推定値	②使用したモデルの種類/値の説明				
			大気中濃度（μg/m³）	4.5×10^{-3}	AIST-ADMER Ver.1.5 東海地域、年平均最大値				
			河川水中濃度（μg/L）	0	河川への排出がないので、河川水中濃度を 0μg/L と推定した。				
	EEC		EEC（μg/L）	0					
			採用理由	公共用水域中の測定値は得られておらず、河川への排出がないため、河川水中濃度を 0μg/L と推定したので EEC を 0μg/L とした。					
	ヒトの摂取量			①摂取量推定に採用した濃度の値	②１日推定摂取量（μg/人/日）	③1 日体重当たり摂取量（μg/kg/日）			
		吸入経路	大気	4.5×10^{-3}（μg/m³）	0.09	1.8×10^{-3}			
			④摂取量推定のための濃度採用の根拠	大気中濃度は、測定結果が得られていないため、推定結果より 4.5×10^{-3}μg/m³ とした。					
		経口経路	飲料水	0（μg/L）	0	0			
			④摂取量推定のための濃度採用の根拠	浄水、地下水の測定結果がなく、河川への排出もないことから飲料水中濃度を 0 μg/L とした。					
			食物	0（μg/g）	0	0			
			④摂取量推定のための濃度採用の根拠	魚体内濃度は、海域中濃度×BCF で推定する。ここでは、海域中濃度が得られず、また、公共用水域への排出がないことから、海域中濃度を 0μg/L とし、魚体内濃度を 0μg/kg とした。					
			経口経路の合計	－	0	0			
		その他	消費者製品等	－	－	－			

項目								
				④摂取量推定のための濃度採用の根拠	-			
		全経路の合計値			-	0.09	1.8×10^{-3}	
	消費者製品経由の暴露				暴露はない。			
有害性評価	生態毒性		①長期 or 急性	②生物種	③エンドポイント	④NOEC 等の値		
		藻類	長期	*Selenastrum capricornutum*[1)] (緑藻、ｾﾚﾅｽﾄﾗﾑ)	72 時間 NOEC 生長速度	4.53(mg/L)		
		甲殻類	長期	*Daphnia magna* (甲殻類、ｵｵﾐｼﾞﾝｺ)	21 日間 NOEC 繁殖	1.46(mg/L)		
		魚類	急性	*Oryzias latipes* (ﾒﾀﾞｶ)	96 時間 LC_{50}	27.7(mg/L)		
		採用した生物とその理由		最小値であるｵｵﾐｼﾞﾝｺ				
	ヒト健康	疫学調査及び事例：-						
		反復投与毒性	摂取経路	①生物種	②投与期間・方法	③エンドポイント	④NOAEL 等の値 (換算値)	
			吸入経路	-	-	-	-	
			経口経路	ラット	雄：交配前 14 日間から交配期間を含む 46 日間； 雌：交配前 14 日間から交配期間、妊娠期間及び分娩後 3 日まで 強制経口投与	雄雌：肝臓の相対重量の増加； 雄：腎臓の絶対及び相対重量の増加など； 雌：腎臓の尿細管上皮の脂肪変性	NOAEL: 12 mg/kg/日	
			経皮経路	-	-	-	-	
		生殖・発生毒性	経口経路	ラット	雄：交配前 14 日間から交配期間を含む 46 日間； 雌：交配前 14 日間から交配期間、妊娠期間及び分娩後 3 日まで 強制経口投与	着床率の低値、出生児数の低値、母動物に発情休止期の継続、全哺育児死亡	NOAEL: 12 mg/kg/日	
		発がん性	-	-	-	-	-	
			発がん性試験情報：試験報告はない。					
			IARC の評価結果：国際機関等で評価は行われていない。					
			ユニットリスク：-					
		遺伝毒性	遺伝毒性判定の結果：現時点では判断できない。					
リ	生態	リスク評価	①EEC（μg/L）	②NOEC 等 (mg/L)	③MOE (NOEC 等 /EEC)	④不確実係数積	⑤判定	

<table>
<tr><th colspan="10">項目</th></tr>
<tr><td rowspan="4">スク評価</td><td rowspan="3">への影響</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td>0</td><td>1.46</td><td>算出しない</td><td colspan="2">算出しない</td><td colspan="2">影響ないと判断</td></tr>
<tr><td colspan="8">不確実係数積内訳： －</td></tr>
<tr><td colspan="2">リコメンデーション</td><td colspan="8">－</td></tr>
<tr><td rowspan="10">ヒト健康</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="2">1.暴露評価</td><td colspan="2">2.NOAEL 等</td><td colspan="4">3.リスク評価</td></tr>
<tr><td colspan="2">①摂取量（μg/kg/日）</td><td colspan="2">①NOAEL 等換算値（mg/kg/日）</td><td>①MOE（NOAEL 等/摂取量）</td><td>②不確実係数積</td><td colspan="2">③判定</td></tr>
<tr><td rowspan="4">反復投与毒性</td><td>吸入経路</td><td colspan="2">0.0018</td><td colspan="2">適切に評価できる試験は得られていない。</td><td>算出せず</td><td>算出せず</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>経口経路</td><td colspan="2">0</td><td colspan="2">NOAEL：12</td><td>算出せず</td><td>算出せず</td><td colspan="2">影響ないと判断</td></tr>
<tr><td>全経路</td><td colspan="2">0.0018</td><td colspan="2">12(経口)</td><td>6,700,000</td><td>1,000</td><td colspan="2">影響ないと判断</td></tr>
<tr><td colspan="8">不確実係数積内訳：種差(10)個人差(10)試験期間(10)</td></tr>
<tr><td>生殖・発生毒性</td><td>経口経路</td><td colspan="7">反復投与毒性と同じ値であるため、MOE の算出は行わない。</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>発がん性</td><td>－</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">リコメンデーション</td><td colspan="8">－</td></tr>
<tr><td colspan="10">備考：①ヒトへの吸入経路の影響に関して信頼できる報告はないが、経口投与による毒性試験結果が全身毒性である肝臓及び腎臓への影響を示しており、吸収がほぼ同程度と仮定して、全経路による摂取量（実際には吸入摂取量）と経口投与毒性の NOAEL を用いて暴露マージンを算出した。</td></tr>
</table>